（昭和八年八月廿九日第三種郵便物認可）

内郷村報

天法人則ニ從順ナルベシ

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村共濟事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、俞餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は中庶に對する遊言を發ぬるものなり。

毎月一回一日發行
本紙定價一部金五錢一ケ年郵稅共金四十錢
福島縣石城郡内郷村宮字宮第二八
發行所　内郷村報社
濱通發行者印刷人石合所　振替仙臺八四二〇
大内民惠
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九
株式會社平活版部

門内の和尚
解らぬ經を讀む

大内民惠

門前の小僧習はぬ經を讀むは、人口に膾炙した諺であるが、こゝに云ふ**門内の和尚解らぬ經を讀む**は、例によつて記者の創唱である。以下之が解釋を試みようと思ふ。門内とは全國七萬の寺院、和尚とは同じく全國十萬の僧侶をいふのである。即ち全國の僧侶が解らぬ經を讀んで居るといふのである。それは勿論嚴密に云へば、幾千卷の經文の本義を委く了解し、體得し、實行するといふ樣な善智識は、恐らく**釋迦**以外にはあり得ない事であり、降て各宗の敎義なり經文なりは、開宗者ならでは、其眞髓は解り得ない事と思はれる。されど記者の云はんと欲する處は、そうした意味ではなく、之を極めて平易に常識的に考へて、苟くも多數の檀家を有する一ケ寺の住職なり和尚なりが、眞に其**使命**を完うして居るものが幾人かあるといふのである。云ふ迄もなく住職としては、第一其宗旨に熱烈なる信仰を有し、大體其敎義に通ずるは勿論、戒律を嚴守し、若しくは嚴守し得ない迄も、之を嚴守すべく精進し、其檀家を始め、一般の人々を敎化し、其に**信**仰を得させて、敎養ある國民乃至社會人たらしめ、一朝無常の風に誘はるゝに際しては、悠然感喜して大往生を遂ぐる樣に指導すべきであると思はれる然るに現在多くの住職にはかゝる當然の大任務を閑却して、たゞ葬儀佛事が其仕事であるかの如くに心得、それも布施の多寡によつて戒名に等級を附け、讀經の長短を加減するといふ有樣である。甚たしきは朝夕の行をさへ怠る者は決して少くない。かくては**御本尊**には勿論、お領りしてある檀家の靈牌に對して相濟まぬ次第ではあるまいか。而して裕かなる寺の住職などには、衣食に贅を盡し、酒色に耽溺し、相濟まぬ次第ではあるも、樂三味に其日を送つて居る者なども少からずである。又記者は先年、さ**勤**行をさへ怠る者は決して少くない。かくては**御本尊**には勿論、お領りしてある檀家の靈牌に對して相濟まぬ次第ではあるまいか。而して裕かなる寺の住職などには、衣食に贅を盡し、酒色に耽溺し、樂三味に其日を送つて居る者なども少からずの目に映るのである。梵妻が三つ巴になつて、中僧小僧施賽錢等を胡麻化し、よからぬ方面に消費するなどといふ事も、屢々耳にする處である。又記者は先年、さる地方の名刹に、一夜お籠りして心身を清洗せんものと、數里の山道をたどつて夕刻着いた處が、其客殿は酒宴酣にして**俗**謠が盛に唄はれて居るので、何かの集りでもあるのかと思つたのである其は其末寺の住職達の集會であり、騷ぎであつて、記者が訪づるゝや、其がぴたりと止んで、御**詠**歌に變つたには、驚き入り、豫期の目的を達する處か、不愉快なる一夜を過ごるを得なかつたのである。聞けば此寺の住職は、某宗管長の兼務で、此處に籠れる多數の若僧は、信仰とか敎養とかは第二で住職の資格を得んが爲に所謂解らぬ讀經や拜法の稽古をして居るに過ぎない樣子眞に呆れざるを得ないのである。又記者は之も先年の事、さる海外布敎師仲間が某君は大層成功して歸つた云々と、さも羨やましげに話して居るので、近頃奇特の事と、其敎化の狀況効果等を聞かうと、それを尋ねたら、何事ぞ**金**をしこたま溜めて歸つたのだとあつたには、唖然たらざるを得なかつた又各宗を通じて、管長をはじめ諸役や權益を得んが爲めに、宗敎家にあるまじき競爭や暗鬪が行はるゝは世間の周知の事である。

印度に起つた佛敎は、支那で整頓され、日本で完成されたといはれて居るが、其日本が斯くの通りでは敎界の爲にも、國家の爲にも、大に考慮しなければならぬ事と思はれる**佛**先頃福島で、本縣方面委員で、記者の心友である、各宗の二三師に、大要以上の如き話をした處、仰せ御最である、是非村報紙上に之を發表して一般**僧**侶を覺醒させて頂きたいなど、激勵してくれ又或在京の、之も親友である某師は、御説の通りで、之を要するに、此世智辛い世の中に、僧侶なるものが餘りに惠まれ過ぎて居るが故に**墮**落して居るのである。こうした狀態で推移するに於ては、將來必ず批難攻擊され、一大排斥をうけて、苦境に陥る時があるにちがひない、そうならなければ到底救はれないと思ふ、つまり我佛敎界の爲に、そうした機運の到來を促進するのが急務である云々といはれた事があつた。

記者が本文を草するに到りたる眞意も、必竟其處にあるのである。

言多罪の責を自ら負ふて、敢て一般僧侶各位並に檀徒諸彥の御一考を煩はす次第である。

擱筆するに當つて、尚一言附加するが、全國十萬の僧侶中、多く見て其五分か一割かは信仰篤く學德並び優れ、所謂解つた經を讀む心から崇敬に値する、眞の**宗**敎家の存在する事は、之を明かに認むると同時に、記者が多年厚誼を忝うして居る、本村四ケ寺の住職各位が、佛敎講演會の開催や、御詠歌を中心とする布敎やらに、盡瘁せられつゝあるに對しては、共に甚深なる敬意を表して居るものである。

本紙は特に全國各宗の本山全部に贈呈する事にしてある。

内郷禁酒貯金會創立

内郷禁酒貯金會の創立總會は、九月二十四日午後二時半より、七年會別館に開會、發起者を代表して國分久氏開會の挨拶をなし、衆議に諮つて大内民惠氏を座長に推薦して、會則の逐條審議決定　役員の選定　會務處理法等の打合せをして散會した。

會則　第一條本會ハ内郷禁酒貯金會ト稱シ事務所ヲ内郷村報社内ニ置ク　第二條本會ハ禁酒シ貯金シ兼テ精神ノ修養ヲナスヲ以テ目的トス　第三條本會ノ趣旨ニ參同スルモノハ何人ト雖モ入會スルコトヲ得　第四條本會ニ左ノ役員ヲ置ク　會長一名　會務ヲ總理ス　副會長一名　會長ヲ補佐シ會長事故アル片ハ其任務ヲ代行ス　常務理事二名　庶務會計ヲ掌ル　理事若干名　會務ヲ處理ス　評議員若干名　重要事項ヲ審議ス　贊助員若干名　本會ノ事業ヲ贊助スル有力家ヲ推戴ス　但シ任期ハ二ケ年トシ會員ノ選擧若クハ推薦ニヨリテ之ヲ定ム　第五條會員ハ禁酒ヲ斷行シ一ケ月金拾錢以上ヲ貯金スル義務ヲ有ス　但シ貯金ハ銘々ノ名義ヲ以テ郵便貯金トシ其通帳ハ會長之ヲ保管シ其承認ヲ得ルニアラザレバ拂戻スコトヲ得ズ　第六條本會ノ事業ヲ實行スル爲メ毎月一回月次會ヲ開催スルモノトス　但其ノ日時及場所ハ其都度之ヲ通牒スルモノトス　第七條本會ニ入會セントスルモノハ會員ノ紹介ニヨリ理事ニ申出テ月次會ニ於テ一同ノ承認ヲ得宣誓書ヲ會長ニ提出シ其許可ヲ受クルモノトス　但其際特ニ宣誓式ヲ擧行シ會員之證ヲ授與ス　第八條入會ノ許可ヲ受ケタル者ハ常ニ胸間ニ本會所定ノ徽章ヲ附ケ其門戸ニ左ノ表札ヲ掲グルモノトス

縦六寸　内郷禁酒貯金會員　横二寸

但徽章及表札代ハ入會ノ當初ニ於テ之ヲ納入スルモノトス　第九條本會ヲ退會セントスル者ハ其旨理事ニ申出テ月次會ニ於テ一同ノ承認ヲ得テ會長之ニ退會ヲ命ズルモノトス　但右決定ト同時ニ其宣誓書及貯金通帳ヲ返還スルモノトス　第十條會員ノ義務ヲ果サズ本會ノ體面ヲ汚損スル者アル時ハ一應役員ヨリ戒告ヲ與ヘ尚改悛ノ見込無キ時ハ月次會ニ於テ一同ノ承認ヲ得テ會長之ニ退會ヲ命ズルモノトス　但右決定ト同時ニ其宣誓書及貯金通帳ヲ返還スルモノトス　第十一條本會員ハ本會ノ費用ニ充當スル爲メ一ケ月金五錢ヲ納入スルモノトス　第十二條本會員ト雖モ神前ノ御酒及冠婚ノ式盃ハ特ニ之ヲ受クル事ヲ許可スルモノトス　第十三條本會則ハ月次會ノ決議ニヨルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ　但月次會々議ノ決議法ハ一般ノ會議法ニ據ル　第十四條本會ノ執務細則ハ別ニ之ヲ定ム以上

宣誓書（書式）

本日内郷禁酒貯金會々員タルコトヲ許可セラル仍テ爾今堅ク會則ヲ遵奉スルコトヲ天地神明ニ宣誓ス

昭和年月日　右　氏名印

役員　會長　大内民惠
副會長　草野泰一
常務理事　齋藤霽國分久
理事　矢澤虎男　木村義松　佐藤文吉　國見四郎　井戸沼留治　鈴木登　星新吾　志賀保治　安島廣三郎　小林鶴吉　武藤義造
評議員　勝沼國吉　志賀保治　武藤義造　井戸沼留治　箕輪榮治　高野金作　安積俊一郎　菊地慶次郎　沖野照明　草野三千雄　齋藤霽
贊助員　田寺茂實　長谷川幾之介　三澤義則　小野昇　湊慶三郎　加美山武夫　金原喜一郎　林田滿　佐々木大作　濱崎善三郎　齋藤祐治　小島良利　會田政治郎　大瀧正晴

會員　大内民惠　國分久　齋藤霽　井戸沼留吉　草野泰一　岡田虎雄　石橋武　木村義　小林伊七　小林鶴吉　武子平　馬上文喜　遠藤忠義　平澤ヨシノ　三林喜太郎　鈴木登　阿部一郎　志賀保治　尾澤梅太郎　星新吾　矢澤虎男　武藤義造　沖野照明　青木富夫　宮崎諒　渡邊淺之助　菅野重吉　箕輪秀治　渡邊鎮　太田昇　馬上北太郎　高野金作　宇津木重守　齋藤國治　山田喜芳　草野三千雄　佐久間若鶴　安積俊一　菊地廣次郎　千葉昌之　安齋キヌイ　木村キヨノ　山野邊孝光　間地寛　小澤源次郎　大原三郎　鈴木勝太郎　村上昇司　田中平　安藤春三　我要宮五郎　安島慶之郎　穂積德次　鈴木寅一　小日山松次郎　鈴木寅次郎　佐藤文吉　鈴木武治　渡邊春次郎　國見四郎　南條幹勝　米野榮吉　國分久六　菊地幹勝　沼國吉　以上九月二十四日決定ノ分（順序不同）

方面委員郡評議員會

十月一日午前十時より淺野頌德館に開催。曲崎郡聯盟會長議長となり、縣聯盟代議員選定の件、（大森勇大内民惠兩氏に決定）同負擔金決定の件（方面委員各自一年貳圓を納入、五拾錢は縣聯盟、壹圓五拾錢は郡聯盟費に充當する事に決定）八年度豫算及其他二三要件を協議決定し大内民惠氏より代議員として出席したる縣聯盟結成會議の報告及大阪に開催せらるゝ全國大會に本縣代表として出席する爲め、研究事項に關して諮問する處あり、晝食後一同綴坑に至り、茅根技手の案内により、坑の内外を見學し、高原委員の案内により、カード者の生活狀態を視察して午後二時解散した

天祖祭制定の議をよめる

杉田　高橋直記

日を定め天つ御祖をまつれとの
君がさけびぞたふとかりける
今よりは天つ御祖をうやまはん
人こそまさめ君ゆゑにして

豫告

記者は、來る九日より大阪に開催せらるゝ全國方面委員大會に、本縣代表として出席する事になつたので次號は縣へ報告を兼ねた大阪紀行號とする豫定である

本紙贊助金寄贈芳名

金四圓　川俣大野運吉

矢野恒太服部宇之吉序　大内民惠著

教育制度改革概論

（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威　前京大總長小西重直博士

書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議感激ニ打タレ申候云々。

磐炭役附聯合會

九月十七日淺野記念館に於て、社宅世話役、現和會

績優良なる採炭夫五百七十七名に對して九月一日附を

水泳部報（五）

第三斜坑　廣瀬六三

常磐炭田水泳界の王座を占めて歴到的壓倒を敢しました。我水泳部は中堅選手諸君の熱誠及皆樣の支持應援により、鑛山協會初回の大會に强敵入山を破る事が出來た次第であります。本年度の我水泳部は中堅選手に二年でありますが、選手諸君の熱誠及皆樣の支持應援により、鑛山協會初回の大會に强敵入山を破る事が出來た次第であります。本年度水泳部報を終りといたします。

麥笛吟社

鳴きうつり蜩遠くなりにけり

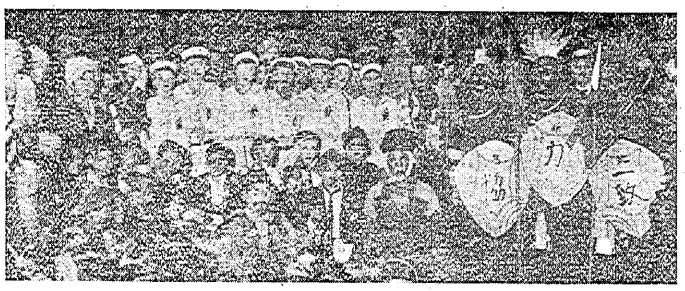
發行所　日本評論社　東京丸ノ内昭和ビル

取次所　内郷村報社

磐炭役附聯合會

九月十七日淺野記念館に於て、社宅世話役、親和會區長以上、安全委員、消防伍長以上、青年會幹事以上溫友會幹部、修養團幹部の聯合會開催、小島課長議長となり石橋兩田中山崎猪狩武藤井上の勞務幹部說明役となつて議事を進め、芳賀世話役辭任の件、浴場及蒸溜水汲取の件等を協議決定し、八島山崎佐藤山本阿部渡邊松本諸氏の轉課轉勤新任の披露、二年以上勤續成績優良なる採炭夫五百七十七名に對して九月一日附を以て採炭工の辭令を交附したること、勞務者教育協會磐炭支部成立した事、修養團事項、深夜業の件、勞務調査委員決定の件、安全競爭規則實施の件等重要事項の報告を了し晝饗後解散した。出席者百三十余名の由

◎佐藤一氏　內鄉尋高校長の同氏は、縣教育會の委囑により九月二十日一行五人と共に、滿鮮視察に出發。



磐炭懸賞假裝盆踊り入賞者

暑中休暇を農場で

磐中三年　大內二郎

學生が暑中休暇を海水浴や溫泉等でぶら〳〵暮す事は餘り結構な事ではないといふ見地から本人も希望するので二男を長男一郎の居る北海道十勝實習場にやつて一ケ月間農事の實習をやらせたこゝに掲げたのは其日誌の一節で子を持つ親御達の御參考ともならば仕合せである(民惠)

七月二十九日、最低溫度一六度最高溫度二七度二。作業、除草、午後より稻黍畑、鎌。食事、朝　米麥飯　蕪漬一皿　白菜味噌汁一鍋　晝　同上　鰯煮物大根下し　夕　同上　二十日大根三杯酢　馬鈴薯味噌汁　ヵヤツ　梅干握り一ケ　日課　起床四時半　朝食五時二十分　午前中休業　晝食十一時　午後作業始め十二時半　作業終り六時十分前　夕食六時半　就寢九時　午後三時ヵヤツ　本文　午前四時半起床、大分眠かつたが我慢して起る。場の御飯を始めてたべたが大層うまかつた。

廐當番の日の二郎

殊に味噌汁が非常にうまい。午前中旅行中の疲れを癒やす爲め休ませてもらひ寢て居たら　熊先生がお出になつたのには恐縮した。午後から實習に出る。位事は草かりであつた。へたばりもせず皆さんの尻についてやる。實習が終つてから風呂に入つたが、頗る氣持がよかつた。晩飯後皆で大騒ぎをして寢る。明日は休みで大樹へ馬市を見に行く豫定である十時就眠

七月三十一日（溫度作業食事日課略す）本文　午前四時起床、今日炊事當番だ。朝の內朝鮮白菜や二十日大根を拔いて洗ふ。仲々面白い。豚小屋掃除の唄かつたのには少しく閉口した。

午後三時製材をして居る處へヵヤツを運ぶ。製材作業を始めて見た

午後九時就床。

八月七日。本文　午前三時半起床今日は廐當番なのでいつもより一時間早く起きたがれむくなかつた始めて馬や牛を扱つて見たが仲々可愛いものだ。始めて馬を使つた時は少し恐ろしかつたが後から何でもなかつた。牛があはれたのには少々參つた。馬で堆肥を運んだ午後馬を寫眞をとつた。(下略)

水泳部報（五）

第三斜坑　廣瀨六三

常磐炭田水泳界の王座を占めて歷倒的躍進を致しました我水泳部は九月二十四日に本年度納會を行ひました。

午後零時三十分小島部長來場と共に、本年度最後の力泳を致しました。其結果次の如き我プール開設以來の新記錄を續出致しました

△五十米自由型三十秒小島部長

△二百米平泳三分二十秒星野一二

△百米自由型一分十一秒富岡主將

△百米背泳一分二十七秒九森七郎

午後四時部長一同記念館に於て、水泳大會の映畫試寫會を催し、明年の跳躍を約束し、和氣藹々の內に散會致しました。

顧れば我磐炭水泳部は、プール完成に二年でありますが、選手諸君の熱誠及皆樣の支持應援により、鑛山協會初回の大會に强敵入山を破る事が出來た次第であります。本年度の我水泳部は中距離選手を缺き、甚だ淋しい感が致しましたが、明年度より一層組織的練習を行ひ、必ず皆樣方の期待に背かず、常磐の覇者たるは勿論、やがては明治神宮に選手を送る意氣であります。又內鄉第三小學校兒童の大會も當プールで行はれました。非常な盛會で最初の試みとしては、大成功でありました。今回が最初でありますので、其成長發展は各方面から、非常な期待をされて居ります。やがては東北一を誇る磐炭プールを有する之等兒童中より第二第三の宮崎牧野等がめざましく巢立つ事を信じて疑ひません。以上にて本年度水泳部報を終りといたします。

麥笛吟社

鳴きうつり蜩遠くなりにけり　石田修二

新涼や半ば水浸ける山ざぼしゆ　志賀野壽司

新涼や石に置きたる闌の鉢　關本雲浦

廢坑に殘り住み居て星祭る　石川虛成

篠の根に現れつかくれつ下り鮎　岡本不味男

蜩の鳴き終るときフト淋し　原ひでを

蜩や山を背にして大藁屋　江連半仙

蜩や避暑宿もして光圓寺　渡邊蘇民

荒縄で七夕竹をくゝりけり　濱崎冬至

萍の吹かれ片寄る野分かな　半澤多田子

さし汐に底冷えて來し泳かな　松浦十方

綠蔭に荷馬車並んで憩ひけり　渡邊丹蕪子

佛壇に淋しくあるや白はちす　中川國男

新涼や九尺糸瓜のゆれやまず　高荻六五

綠蔭にふらこゝ吊りて溫泉の宿　坂本野風

淩霄の花も終りや秋涼し　高木撫山

孫　大內民惠

知れる歌すべてうたひつ翁媼

孫の相手をする夕かな

ねころべば二人の孫のほひよりて

耳をなぶりつよだれたらしつ

矢野恒太序　服部宇之吉　大內民惠著
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實驗とから新に大內案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

發行所　日本評論社　東京丸ノ內昭和ビル
取次所　內鄉村報社

但シ任期ハ二ケ年トシ會員ノ選擧若クハ推薦ニヨリテ之ヲ定ム　第五條會員ハ禁酒ヲ斷行シ一ケ月金拾錢以

矢澤虎男　木村義松　佐藤文吉　國見四郎　井戸沼留治　鈴木登　星新吾　志賀保治

認ヲ得テ會長之ニ退會ヲ命ズルモノトス　但右決定ト同時ニ其宣誓書及貯金通帳ヲ返還スルコトス　第十

木寅次郎　佐藤文吉　鈴木武治　渡邊春次郎　國見四郎　南條幹　米野榮吉　岡分久六　菊地幹勝　沼國吉以上九月二十四日決定ノ分（順序不同）

次號は縣へ報告を兼ねた大阪紀行號とする豫定である

本紙贊助金寄贈芳名

金四圓　川俣大野運吉

變裝入湯記 [二]

大内民惠

明くれば八月十一日、納豆と味噌汁で朝食。下界と大差なき暑さである。例の六尺褌一本でれころび、てれかくしに脂さかつた煙管で、刻みをふかし乍ら講談本を讀む。我々の部屋は三階表通り三室の中央で、西隣は某町陶器屋の大家族、東隣は三十五六某機業地の機屋のお神さんと男の子に、十六七の姉弟が相客、廊下を隔てゝ一室には孫數人をつれた某市乾物屋の老婦人、一室には四十前後とも見ゆる

血色も愛嬌もよい、某市魚問屋のお神さん母子と、五十二三位の眼鏡をかけた未亡人（息子さん二人と嫁さんが小學校の先生をして居るといふ話）が之に合客といふ有樣、襖も障子も明け放され

五室共通の形、豫期に反して秋蚕期なるが故に、農村のお客さんはワイ氏一人なのが物足りない。子供連は二十人近く、賑かにはしやぎまはり、大供連はお互に呼ぶれつ、銘々御持參のお茶うけて、四方八方の

茶飲話、機屋さんからは機業一般、工女生活の狀況、魚問屋さんからは、仕入や販賣の經路を承り、眼鏡未亡人ば老後の樂みに淨瑠璃を稽古して居るのだといふので、一つ是非聞かして下さいとお願するが、イヽエなにとてもと一向聞かしてくれないが、一日中何回となく

面壁正座、ペン〳〵ひきながら微吟低唱する、せむるに落ちず何とやらば、此處にも應用が出來ると感心する。賣食は殘つてた飯汁及び新に鮭の鹽燒をとつて片附ける。午後からワイ氏の案内で各旅館と地下道によつて通ずる二つの共同浴場を歴浴する。仕切りは形式丈で男女共浴に都合よい樣に出來て居る。

女湯のぞきで批難され、有名になつた某郡某校長さんなどもかうした土地に奉職して居たら、問題もおこらず、首にもならず、悠々裸體美を觀賞出來たであらうにとほゝ笑まれた。何しろ浴客が滿員なので、各旅館の内湯の如きも全旅館の共同浴場の樣な狀態で頗る自由であり、其處で懇意になれば、客同志の往來が開始せらるゝので、各旅館の如きも殆ど

開放的になつて居る。其を利用して記者は、滯在中何れの旅館にも出入して、觀察を恣ひまゝにした。賣食は馬鈴薯の煮附けとトマトウ一皿ですます。子供達が餘りに騷々しいので、どうだい今夜は一つみんなが集つて

學藝會でもやつたらと提案した同、記者の部屋と東隣の二室を打ちぬいで會場とする。集まるもの老幼三十余人、先づ一同起立して國歌合唱、

炭（タン）山の爺さんが云ひ出したのだから、先づ爺さんから何かやれといふ事になり、そこで己むを得ず立ち上り、此爺樣はかくの通り頭が禿げて居るが、みんなの樣に小さい時も若い時もあつたのだ。それが親の云ふ事を聞かなかつたり、先生の敎を守らなかつたり、大酒を飲んだり、惡い遊びをしたりしたので、とう〳〵先祖からの家屋敷も、田地も賣拂つて、

故郷にも居る事か出來なくなり炭礦の礦夫に落ちぶれ、食ふや食はずの艱難苦勞をしたので、此通り禿げて仕舞つたのだ。世の中にはよい手本もあれば、惡い手本もある。此爺樣は惡い手本なのだ。皆さんはどうあつても、此惡い手本を眞似てはいけないよ云々とやらかす。其から唱歌あり、遊戯があり、という樣に

調子づく。此騷ぎを聞きつけて隣りの宿からハモニカをもつた二青年が舞込み、村の娘、佐渡おけさ何でも所望に應じて上手に合奏するので、聽衆續々入場、向ひ宿三階の廊下では

立錐の餘地なき迄の人氣、例の眼鏡未亡人にも是非さはりの一くさりをと、懇望に及んだが、とう〳〵やつてくれね。かくて九時頃盛會裡に閉會。一浴して床についた。未亡人が相變らず壁に向つてペン〳〵やり始めたのを夢うつゝに聞きながら眠る。

夜半ふと目がさめたので一浴しやうかと、浴場をのぞいたら若い男女がふざけて居るので邪魔をしてはと引きかへす。十二日、朝食には納豆生卵及海苔をとる。味も香りもなく、松の木の

皮の樣な海苔は、生れて始めてであつた。此日は例の仕度で川向ひの千人風呂へ行つて見た。茶屋で氷水をのんでたら、某町の仕立屋さんといふのが休んで居て其十歳位の娘が、アラ爺さんでも氷水をのんで居ると父にさゝやいで制止されたのには、老寄の冷水を思ひ出しておかしかつた。それがら果物店で甘瓜を買ひ

食ひとして居たら、某市小學校開催の林間學校の一隊が通るので、一女敎員を呼びとめて、いろ〳〵聞かうと聲をかけたら、我輩の風體に驚いたものか、一瞥した丈でさつさと通り過ぎて行つた。正午にもなつたので宿に引きかへした。見ると例の天下一品の藝者二人が滿艦飾で、孔雀の樣に唯一本の溫泉街を悠々とれり歩く通りは勿論、二階からも三階からも頭を出して眺めて居る。晝食は茄子の味噌燒にトマトウ。此日東西兩隣及乾物屋一行が歸つて、魚屋さんと未亡人が西隣へ移つた。夕飯には鱸の鹽燒にする。魚問屋さんが家から送つて來たからとて鹽鮭と鱧の刺身一皿とを下された聞けば宿では庖丁も釜所も貸されないといふので、浴場の洗面場で柴切庖丁で料理したとの事、ワイ氏は特合せの野菜をおかへしとして送つたが、記者は何もないので唯口上で厚く御禮を申述べた。夜に入つて東隣へは、旅籠制の東京の登錄器屋さんと、某郡の首席訓導がやつて來た。訓導は煙突を一本立てゝ、女中等と談笑しつゝ、ゆつくりと洵にお行儀よく三十分もかゝつて夕食を召上つた。農村敎育家のお食事を始めから終り迄拜見する光榮を有した。登錄君は全國に渉つての旅行觀旅館觀、果ては木賃と旅籠の比較論を說いたワイ氏を始めお蔭で

新智識を得たと感心する。記者も之に相槌を打つた。それから今夜は向ひの空いた部屋で藝づくしをやらうと評議一決に及び、一藝づゝ順途りに演ずる事になつた。登錄君なか〳〵の藝人で、番が廻るのが待遠しい位、未亡人も興に乘つて我等の希望を容れてくれた。記者も知つてる丈をやつて仕舞には種がつきてお經を誦したり、說敎の聲色をつかつたりして喝采された。其時客があるから部屋を開けてくれと云はれたので、是幸と散會し、湯槽を洗つて半分位たまつたといふので、女中達も加へて少男女十余名が、一緒に飛び込んだら、よい塩梅に湯が一ぱいになつた。其處で誰が一番

腹が大きいかといふ問題が起り一本の手拭で順々に計つたら記者が第一等であつた。炭山は布袋の樣だといふ人もあれば、ビスマルクの樣だとひやかす人もあつた。明くれだ十三日、昨夜の塩鮭を御馳走になる。愈々今日は下山するので、計算を命じた。合計金圓二十三錢だ。茶代及祝儀に分に過ぎぬ。明細書を見ると、泊料七十五錢、布團料七十五錢、電燈炭料四十五錢、鮭一切二十錢、鱸一切二十五錢、蕎十錢、豆腐七錢等々と細かに調べて見ると、時價、質、量の三方面から見て決して安くはない、殊に松の皮の四錢には驚いた。そこで宿屋への忠告事項を考へて見た。先づ其日の献立と定價表とを作つて一々客に示して注文をとる事、交通の便利な今日溫泉場だからといふ考で暴利を貪らぬ事、前の庖丁問題の如き場合には進んで調理をして上げるといふ樣にすべき事而して萬事其骨を忘れぬ事、土湯は概して浴場が不潔である事、男女混浴は考慮すべき問題である事、宿屋の主人も主婦も他の各溫泉場及東京の簡易食堂等を視察體驗して參考に資する事、大体之位の点に留意して改良するならば

桃李言はず下自ら蹊を成すで、自動車賃を拂つても、客は蝟集して、今より以上に繁昌する事は請合だと思ふ。それから滯在中著しく目に附いた事は、入浴中の小學兒童が特に公德方面の訓練が缺けて居る事と粗野でごつ〳〵して居て如何にも敎員嗅い先生方の多かつた事である。書けば際限がないから、三日間お世話になつた皆樣に心から厚く御

禮を申上げて以下之を略することにし、同時に前號の變裝記に對して方々から書面やら口頭やらで、賞讃のお言葉を戴いた事を紙上を通じて感謝の意を表する。

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村共濟事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は手筆に對する遊言を發ぬるものなり。

昭和八年八月一日印刷納本
第三種郵便物認可
内郷村報
天法人則
ニ從順ナ
昭和八年十月一日發行
本紙定價一部金五錢一ケ年郵稅共金四十錢
福島縣石城郡内郷村宮字宮添二八
發行所　内郷村報社
福島縣石城郡内郷村宮字宮添二八
印刷所　大内民惠
福島縣石城郡平町一丁目二九
株式會社　平活版廣